

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. File」では、時代の趨勢となっている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。

1931年、岐阜県岐阜市に開業し、3代にわたり受け継がれてきた伊塚歯科医院。3代目の伊塚良彦院長は、子供のころから初代院長のご婦人である祖母に「歯科医師への道」を刷り込まれ、何の疑いもなく歯科医師への道を進んできました。北海道大学歯学部卒業後、すぐに帰郷し、そのまま2代目院長の下に、「町にあつて当たり前」の歯科医院のあり方を父に習いつつ、日々進歩する歯科医療技術を勉強で吸収。2009年には名実ともに3代目を継承しました。地方都市の過疎化が進む中で、患者ニーズにオールマイティで応える「町の歯科医院」であり続けるために尽力する、伊塚先生にお話を伺いました。

## 歯科の地域医療に貢献 高度成長期に大きく飛躍

伊塚歯科医院は、私の祖父が開業し、父、私と3代続いています。3代続く歯科医院というのは、このあたりでも非常に珍しいようです。祖父が開業した当時、この周辺には歯科医院が少なく、小学校の校医を務めるなどして、地域の口腔健康にとっては重要な存在だったと聞いています。開業してから2回ほど移転し、父の代に現在の位置に腰をすえました。

祖父・父が院長だった

1950年代から90年代までは当院の周囲は繊維業が盛んでした。岐阜駅前前は通称「問屋街」と呼ばれ、多くの人が働き、私が小さいころは近所の繁華街、柳ヶ瀬では、夜は歩くのもままならないほどの賑わいでした。当時は患者さんも非常に多く、歯科医師は多いときで3名、歯科技士は6名いたことがあります。

それだけ長く続いていることもあって、今でも父に診て欲しいという患者さん多いです。そういう方には、71歳になる父が診療を続けています。



## 歯科医師のほかに 進む道は見えなかった

私が歯科医師を目指した動機は、純粋にこの医院を継承していきたいと思ったからです。父や母から「歯科医師になれ」と言われたことはありませんが、祖母にはよく、あなたは跡を継ぐんだよ」と言われていたことを覚えています。私の志望動機も、祖母につましく刷り込ま

# 父祖3代の「町の歯科医院」 これからもそうあり 続けるために

伊塚歯科医院

院長 伊塚 良彦 先生





また、患者さんにみがけていないところばかりを指摘して、患者さんの歯みがきを否定するのは長続きしません。できるだけ、患者さんの良いところを褒め、やる気をもっといただくといいことも心がけてもらっています。



予防歯科の実践、継続のために、歯科衛生士の教育にも力を入れ、一丸となってより質の高い歯科医療を目指しています。

また、当院の大きな特長は、院内に技工室を設け、2名の歯科技工士が常駐していることです。父の時代には患者さんの数が多く、補綴や義歯の需要も高くありました。今でも高齢の患者さんは多く、補綴や義歯の方も少なくありません。歯科技工士が常駐していることで、指示書には書けない義歯の微妙なコアンスも直接伝えられ、微調整もすぐに対応できるため、患者さんには非常に喜ばれています。外注する需要が無いので、即日完成が可能。な程のスピード対応が自慢です。急に義歯が壊れてしまった患者さんや、時間がない緊急の患者さんのご要望にも答えることができます。補綴や義歯の患者さんが多い当院に適した、非常にメリットのあるスタッフ配置です。

## 迷いのあった予防歯科の継続か、 自費治療への転換か

岐阜市もかつての繊維産業が衰退し、人口減少に歯止めがかかりません。したがって患者さんの数も減少傾向にあります。その中で予防歯科を掲げ、歯科衛生士を多く雇用する体制は経営的にはありません。

私が当院の管理者になつた2009年に、このまま予防

歯科を中心としていくのか、もっと人を減らし、規模を縮小して自費治療中心に切り替えるか、真剣に考えたことがありました。結論は、患者さんに喜んでもらえる医院でありたいということでした。歯科で患者さんが喜ぶのは、痛くしないこと、そして「一生自分の歯でご飯が食べられること」。そのためには予防が大切だと結論付け、今の路線を貫くことを決めたのです。

私は歯科医師としてオールマイティでありたいと思っています。インプラントも審美歯科も、口腔外科でやるような水平埋伏歯の抜歯であっても、患者さんの「ズグがあるからにはやる。まさに歯科の、なんでも屋」、これぞ「町の歯医者さん」という感じですね。

そのためには、新しい技術はできるだけ自分でもできるよつになりたい。技術の引出しを多く持ちたいと思って取り組んでいます。引出しの多さを強みにして、ひとつの治療をいろいろな方法でアプローチしたり、子どもからお年寄りまで誰でも診ることができる歯科医師を目指しています。

経営的には大変でも、患者さんのためを思つと、やらねばならないと思います。この町の患者さんたちは、昔から当院にメインテナンスで通院しているので、デンタルQや口への関心が高く、自費治療の患者さんも多くいます。そのおかげで、人手とコストのかかる予防歯科中心の診療が継続できています。

## いつでもそこにある歯科医院 3代目の役割とこれからの課題

3代目としての私の役割は、まずは伊塚歯科医院を潰さないこと(笑)。そして、4代目に引き継ぐことだと思っています。

この周辺の地域も、全国的に問題視されている少子

高齢化が進んでいます。私の母校でもあり、100年以上の歴史がある徹明小学校の校医を3代にわたって務めています。この小学校も生徒数の減少でまもなくの統合が決定しています。そのくらい、この地域では人口が減少しており、最近では歯科医院経営にも厳しさが増しています。

しかし、祖父の代からこの地で地域医療に貢献してきて、今も続いている歯科医院として簡単に立ち退くことはできません。地域の方々には、あそこに行けば治してくれる」と頼りにしていただいているので、当院が無くなると困ってしまう患者さんも多くいらっしゃいます。「そこにあつて当たり前」な歯科としてやってきているので、これを絶やさないようにしたいですね。

新たな動きとしては、訪問診療があります。そもそもの始まりは、通院されていた患者さんが高齢になり、自宅や高齢者施設での療養を余儀なくされたことでした。今は、歯科衛生士と一緒に昼休みの時間を利用して通常の診療の合間を縫って、患者さんがいる施設や自宅を回り、診療をしています。

生涯にわたって患者さんの歯の面倒を見る歯科医師でありたいと考える私には、訪問診療は究極の医療です。患者さんの高齢化が続くことで、こちらから出向いて行かなければ仕事にならない時代になりつつあります。特に年配の患者さんが多い当院では避けられない問題です。ですから、医院としての明確な取り組み対象と位置づけて、訪問診療を医院事業のひとつの柱に育てることも視野に入れていきます。

伊塚 良彦(りかひこ)先生 プロフィール

1972年生まれ。岐阜県立岐阜高等学校を卒業後、北海道大学歯学部に進学して歯科医師の道へ。1997年3月に同大を卒業し、同年4月から「伊塚歯科医院」で勤務。2009年に「伊塚歯科医院」の管理者を父から受け継ぎ、現在に至る。



## メインとしての自覚で 取り組む3年目



歯科衛生士  
恩田 幸子さん

私は新卒で当院に入職し、働き始めて3年目。1年目は学校で学んだ事をうまく生かせず、ずつと落ち込んでいましたが、今では仕事にも慣れ、日々楽しんでいきます。

現在の主な仕事は、スケーリング、診療の補助、そして今年入職してきた新卒3人の新人指導です。みんな、素直で私の話を熱心に聞いてくれます。新人の指導は、自分を振り返ることもでき、私自身の勉強にもなっています。そのほかにも、セミナーに参加して新しい技術やテクニクを勉強したり、先輩からアドバイスをいただいたりして、自分のスキルもみがいでいきます。

患者さんに対しては、リコールに来てもらうため、できるだけ褒めることを意識して接しています。一所懸命に取り組んでいる患者さんのやる気を削がないようにできているところは褒めて、できていないところは励ましながらセルフケア指導をするように気をつけています。

7月で先輩が退職し、今後は私が中心になって仕事をしなければなりません。新卒の3人を引っ張っていけるように頑張りたいと思います。

## 35年の経験を生かし周囲を サポートする



歯科衛生士  
安達 りつ子さん

私が当院で働き始めたのは、2代目が院長の頃で、もう35年も前のことです。結婚・出産で退職し、8年ほどのブランクの後に復職し、その後も何度か入退職がありました。今はパートとして私の娘世代の方々と一緒に働いています。

現院長のことは幼少のころから知っています。大学を卒業されて帰郷し、働き始めたばかりの頃は、若さゆえでしょうが生意気でした(笑)。しかし、徐々に患者さんの立場で治療をされるようになり、成長されていく姿を身近で見守ることができました。

今は、2代目の頃からの来院されている患者さんの担当歯科衛生士として仕事をしながら、歯科衛生士の先輩として、また長年にわたる経験者として、若手のサポートをすることを意識しています。今の若い歯科衛生士の方は学校で3年間しっかり勉強している分、基礎もできていますし、飲み込みも早いので、安心して見ていられます。私は長年積んできた経験を生かして、患者さんの接し方で見本になりたいと思っています。

## 新人としてこれからの 医院に貢献するために



歯科衛生士  
篠田 留衣さん

私は今年の3月に歯科衛生士学校を卒業して、4月に新卒で当院に入職したばかりです。知っていることの少なさ、できないことの多さに自分自身驚いています。今は新しいこと、楽しいことの連続で、毎日時間が流れるのが早く感じます。仕事は楽しいですが、同時にその厳しさも実感しています。

一番難しいのは患者さんとのコミュニケーションです。年配の患者さんが多いので、リラックスしていただけるようにお話をするのが難しく、苦戦しています。ベテランの安達は患者さんへの接し方が素晴らしく、「見習おつ」といつも横で見えています。

当院の歯科衛生士は皆仲が良く、私の質問にもとても優しく指導をしてくれます。個人練習にも付き合っていたいただき、本当にありがたき思います。

やっと通りの仕事を覚えたので、これからは技術を高めていくことが課題です。来年の1月からSRPの講習に参加する予定です。その先も勉強会やデンタルショーに参加してしっかりと勉強を積み重ね、技術をみがいでいきます。